

Shippio Cargoを活用した
脱属人化・情報管理一元化への取り組み

株式会社ホクチク

宮崎 博貴

2025年 6月 17日

事業概要

■ 社名：

株式会社ホクチク

■ 拠点：

北海道浦河町（1968年創業）

■ 社員数：

37名（2025年5月1日時点。パート・嘱託職員含む）

事業概要

■ 事業内容：

競走馬用飼料・資材の販売

（**エン麦**、**乾牧草**、配合飼料、切草、牧柵、**敷料**など）

■ 仕入先：

国内、北米、オーストラリア、中国、ベトナムなど

■ 顧客：

競走馬生産牧場・育成牧場、競馬場、乗馬クラブ、JAなど

補助金申請の経緯

■ 課題①：メール依存による情報管理の煩雑化

書類ややり取りがすべてメールに埋もれ、トラブル発生時の情報検索に時間を要していた。

■ 課題②：動静確認が手動・断片的

船会社サイトに都度アクセスして情報取得。リアルタイム更新が難しく、手間とミスの原因に。

■ 課題③：在庫共有の非効率

OneDriveとローカルExcelが連動しておらず、現場と業務担当者間で情報共有に手間がかかっていた。

→ 業務負荷が集中し、貿易業務の可視化・一元管理が急務となっていた。

補助金申請の経緯

■ 問題の本質：

全関係者が同時に最新の情報・書類・やり取りを共有できる仕組みがなかった

■ Shippio Cargoの主な機能・特長：

- カーゴステータスの自動可視化（1日2回、複数情報源から自動更新）
- 業務進捗と書類管理の一元化（案件単位でチャット・書類管理が可能）

➔ 担当者ごとに散在していた情報を一元管理できる、
当社にとって最適なプラットフォームと判断

補助金申請の経緯

■ なぜ補助金を活用したか

現行の業務フローは**10年以上継続**しており、**属人化・慣れ**が根強かった
新システム導入に対する**社内の抵抗感や不安**があった

➔ Shippio社より補助金制度を紹介され、**導入の後押し材料**として申請を決断

補助事業の概要

■ 期間：

2024年9月 ～ 2025年2月

■ 申請区分：

類型：類型2

補助率：中小企業 2/3

■ 対象：

Shippio Cargoの初期導入費用およびシステム利用料（8ヵ月分）

補助事業の概要

■ 導入体制・対象業務

月間ブッキング件数：通常期で約20件、繁忙期で約35件

従来体制：貿易業務担当2名＋ドレー業務担当1名の計3名

導入後体制：

→ 上記3名に加え、

→ デバン担当者2名、

→ 海外サプライヤー担当者10名以上もプラットフォームに参加

➔ 業務の流れを関係者全体で可視化し、情報の一元管理が可能に

導入時の課題と対応

■ 社内での導入時の課題

業務全体との連動イメージを描ききれず、

→ 「どの作業をShippio Cargoで代替するのか」が現場に伝わらなかった

操作に不慣れなことも相まって、

→ **Excelベースの従来型作業 vs Shippio Cargo派の分裂**

→ 結果として一部で**作業の重複や混乱が発生**

導入時の課題と対応

■ 社外関係者への導入課題

特に海外のサプライヤーが、

→ 「**社内システムへの導入が必要**」と誤解し、初期導入に難色

実際には：

→ 無料のアカウント登録で利用可能なクラウドサービスであることを、

丁寧に説明する必要があった

導入時の課題と対応

■ 解決に向けた取り組み

株式会社Shippioとの**定期ミーティングを継続的に実施**

- 操作方法の共有、課題の整理、改善要望のフィードバックを通じ、
- 社内に理解者が徐々に増加

英文の導入説明書をShippioに提供してもらい、

- 海外サプライヤーの多くにも導入してもらうことができた

導入による効果

■ 補助事業によって得られた効果（定量面）

月間削減効果：16.5時間／月

人件費換算：¥57,750／月

→ 補助金申請時の試算の**約79%**を実現

（主にメール検索や動静確認の削減、情報共有スピードの向上が寄与）

導入による効果

■ 定性的な効果

- メール・書類探し、船の動静確認の工数が**大幅に削減**
- 各関係者との情報共有が**リアルタイム化**し、**ミス・行き違いの減少**
- 案件ベースでのコミュニケーションにより、**履歴が一元管理**され、
トラブル時の対応も迅速に

現在の課題と今後の改善

■ 現時点での課題・今後の改善ポイント

内航船の情報が自動更新されない

→ アップデートによるリアルタイム性向上に期待

運送業者は未参加：

→ ドレー業務の効率化を目指し、関係者追加を検討

→ 搬出票のまとめ送信にも対応策を講じた

現在の課題と今後の改善

■ 今後の展望

サプライチェーンの混乱が続く中、

→ **ステータス更新の即時性が在庫調整の判断力強化につながる**

将来的には**在庫管理・発注判断まで含めた業務全体の最適化**を視野に

導入を検討されている企業様へ

業務の属人化や既存フローに慣れがある企業こそ導入価値あり

ただし、導入前に

- 業務フロー全体の洗い出し
- 担当者の「今の不満点」のヒアリング

を行い、**連動イメージを明確にすることが定着のカギ**

ご清聴ありがとうございました